



進言

NGOと

コーディネーター

中西 泉



阪神・淡路
大震災で端な
くも脚光を浴
びることとな
ったAMDA

(アジア医師連絡協議会)だが、
その活動を支えている人々の中に
コーディネーター(調整員)、広く
は事務局員の存在がある。人々の

目は医師・看護婦に集中しがちで
ある。しかし、これらの職種の人々
が円滑に仕事を行えるのも、コー
ディネーターを含めた、事務局に
負うところが大きいのである。

今回の大震災緊急救援活動は、
AMDAにとっては国内におけ
る、初めての出勤であった。しか
し、その手法は、国外での難民救
援医療活動に倣ったところが多
く、さかのぼれば、国連難民高等
弁務官事務所(UNHCR)の長
年の経験が応用され、生かされて
いるのである。

一見、何の役にも立ちそうにな
い、遠い外国での医療活動が、決

して無駄ではなかったところに、
今回の事象の一面があるのであ
る。

しかしながら、現状は、NGO
に参加する人たちの心意気に頼る
ところが大き、これらの人々の隠
された能力が十分に引き出されず
にきたきらいがある。ことに医療
NGOでは、事務局が軽んぜられ
てきた傾向があったことは否めな
い事実であり、言葉を返せば、わ
が国のNGOの活動の今後は、こ
れらの人々の双肩に懸かっている
のである。われわれの手で次世代
の人材を養成する時期が到来しつ
つあるのである。

単に記憶し、学習するのではな
く、問題点の発見、解決する能力
を持った人材の育成が、NGOの
みならず、これからのわが国の盛
衰を左右するといっても過言では
ない。医師、看護婦は、なるほど
優れた能力を有してはいるが、時
に「木を見て森を見ない」ことが
ある。

鳥観的視野を持ち、活動できる
人材養成に微力ながらAMDA
も、これまでに培った経験を生か
すことができないうものか、と教育
に関し、模索中である。

(AMDA副代表、東京都町田市
・町谷原病院院長)